

寒川町みんなの協働事業提案制度モデル事業
(平成 2 8 年度実施事業) 中間報告会

日 時	平成 2 9 年 1 月 1 3 日 (金) 午後 3 時 1 5 分～ 5 時 5 分
場 所	寒川町役場 東分庁舎 2 階 第 1 会議室
出席団体等	各協働事業提案団体、寒川町協働事業選考委員各位 (深澤委員欠席) 事務局 (協働文化推進課) : 越原、内藤、岡野
件 名	寒川町みんなの協働事業提案制度モデル事業 (平成 2 8 年度実施事業) 中間報告会
概 要	<p>【中間報告①】</p> <p><u>川とのふれあい公園花壇等の整備および維持管理 (川とのふれあい公園花壇の会) [事業協力課 : 都市計画課]</u></p> <p><団体からの報告></p> <ul style="list-style-type: none"> ・花壇や広場の草の堆肥化、町との協働による花壇の運営、ボランティアへの肥料配布を行っている。 ・進捗は、計画より半年遅れた。理由は、県土木事務所との調整に時間を要したことによる。 ・河川管理者 (県土木事務所) より、花壇の個別設置ではなく、連続した工作物であれば許可できるとのことで、33 区画全体に花壇を拡張することとなった。 ・県土木事務所より、広場の枯れ草の置き場は増設できないと言われたため、現在空いている区画に枯れ草を積んでいる。県土木事務所からの許可条件により、使用できる区画が増えて広がった分は、逆にそのように活用している。 ・11 月末現在で区画の整理が完了していない。現在は、花壇を町との協働により運営しており、来年度も継続して事業を行いたい。 <p><事業協力課からの報告></p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市計画課は、県土木事務所への占用許可申請を担当した。結果、花壇を全体的 33 区画とも 90 cm 幅拡張すれば許可できるとのことであった。 <p><質疑応答></p> <ul style="list-style-type: none"> ・花壇整備をして、花壇に花を植えていくのか。それとも、一面に彼岸花を植えるのか。 <p>→提案の趣旨としては、花壇の草を堆肥化して花壇でリサイクルしていく。空いた</p>

区画を利用して、町と協働で花を植える。花植ボランティア全員が花壇の会の会員ではないため、こちらでボランティアが花植をできるようにお膳立てをして、枯れ草のリサイクルに協力してもらおう。全てが彼岸花だと、花植ボランティアの協力は得られない。彼岸花以外の花も植える。

・参加人数が少ない。計画が遅れているが、提案前に打ち合わせしたのではないか。

→花植ボランティアは20人いて、その中の13人が花壇の会に入っています。会員は、できればもっと増やしたいと思っています。県土木事務所との調整は、図面を起こして提出したり、実際に県土木事務所に伺って申請のやりとり等で時間を要し遅れてしまいました。

・県土木事務所と調整をしなくてはならない事業だったのか。また、当初33区画の1区画に枯れ草を入れてリサイクルをする計画であったが、これが半年遅れるとこの事業自体を実施できるのか問題がある。事前に県土木事務所の内諾は取れなかったのか。

→事前に内諾を取ればよかったが、結局出だしの県との調整が遅れてしまい会には迷惑をかけてしまった。もっと事業の前段に、県に打診をすべきであった。

・当初の認可では事務費が1万円になっていたが、中間報告書では9,500円になっている。

→端数調整の関係で、このような記述になりました。

・千円未満切り捨てであるならば、事務局で事前にチェックするように。

・花だけでなく、昆虫も含めてみなさんに興味を持ってもらってはどうか。町のインスタグラムなどで取り上げてもらったらよい。

【中間報告②】

子ども未来塾～生活困窮家庭の子どもへの「学習支援事業」～（住みよい町・さむかわにする会）[事業協力課：学校教育課]

<団体からの報告>

・予定では15人であったが、現在8人の生徒が南部文化福祉会館で勉強している。日本の生活困窮率は16%なので、大体6人に1人が生活困窮家庭である。寒川の中学生在が1,334人で、内3年生が419人なので、当初15人と見積もっていた。

・事業が始まったのが7月末で、この8人の内訳は、広報を見てが2人、先生の紹介が1人、その他5人が口コミで来ている。事業をPRする力がなかったと反省している。

・1人の生徒を除いて、小学生の問題も解けない子もおり、学力はバラバラである。高校進学には、内申点が大きなウェイトを占めていることから、今後は1、2年生も対象としていきたい。また、事業も4月から開始できるようにし、効果的なサポートをしていきたいと考えている。

<事業協力課からの報告>

・学校教育課は、夏休み前の面談の時期に合わせる形で、中学校にチラシの配布等を依頼した。

<質疑応答>

・講師3人は、学生かシニアボランティアか。

→高校生が1人、高校の先生が1人、塾経営者が1人です。

・学校は、寒川の学力を上げることにについて未来塾に任せる考えなのか。町全体のレベルアップについての考えはどうか。また、ボランティア活動は、そもそも無償で労力を提供するものではないか。

→高校入試には、高校生でも解けない問題がある。いくら無料でも、いい加減に教えることはできないため、それらの問題も教えられる人に講師を頼むことになる。ボランティアを募集しても、ちゃんと教えられる人はなかなか来ない。

・3年生から教えても学力を上げることが難しいので、窓口を1、2年生にも広げることがよいと思う。また、寒川の子どもがこういった取り組みに興味を持つような仕組みが必要。せつかく事業をするなら、行ってよかったと言われるような未来塾をつくってほしい。

→昨年の生徒は4人だった。助けてあげた方がよい生徒は、たくさんいる。我々が提供しているチャンスを、生徒が掴めるようにしていきたい。

・需要のある事業だと思う。1、2年生を対象に裾野を広げ継続していくなら、教育委員会と連携を取って広報して欲しい。

・退職後の先生などにボランティアを依頼してはどうか。

【中間報告③】

捕獲して、不妊去勢手術をして、元の場所に戻す活動（TNR活動）及び子猫の保護と里親制度の活用（寒川ネコの会） [事業協力課：環境課・都市計画課]

<団体からの報告>

・一之宮公園周辺のTNR活動と子猫の保護について、当初の計画では30匹であったが、現在40匹と予想以上の数である。

・当初の計画と比較し、里親に出す子猫の数が予想以上に増えた一方、TNR活動の不妊・去勢手術費はどうぶつ基金（公益財団法人）の無料手術チケットを活用できることが分かり、そちらを活用している。

・獣医師のアドバイスにより、子猫を里親に出す前にワクチンを接種する事とした他、エサ代、猫砂代等の予想していなかった消耗品等が生じた。そのため、町に補助金の

使用内容の変更承認申請を提出し、承認を得た。

・このモデル事業では、一之宮公園周辺で活動しているが、モデル事業以外でも活動を町全域で行っている。そちらの実績は、TNR活動がオスとメス併せて51匹、子猫の保護が57匹。一之宮公園周辺も含めると、TNR活動が71匹、子猫の保護が72匹である。これらの数字を見ると、何もこの活動をしなかったらどうなっていたのだろうかと思う。今後も、この活動を続けていきたい。

<事業協力課からの報告>

・一之宮公園周辺を中心に、町内全域で活動している。元は飼い猫であり、地域の問題になっているところもある。引き続き、このような活動をお願いしたいと考えている。

<質疑応答>

・里親に出すまでの期間は、どこで預かっているのか。

→ボランティアの中で保護する担当がいるので、そちらに預ける。野良猫なので人間に慣れていないため、里親に出せるまで預かる。その写真をスーパーなどの人が集まる場所に貼り、そこで里親を募集する。中には、故意にしっぽや脚を切断された親猫もあり、そういう猫だと元の場所には戻せない。また、猫のエイズや白血病もあるため、そういった猫は他の猫と一緒にできず、別の場所で保護を行う。

・首輪のない猫が多い。行政から町民に対し、飼い猫は首輪をするよう周知してほしい。また、首輪のない猫は捕獲できないのか。庭でいたずらする野良猫に困っている人もいる。

→猫は、犬と異なり登録制度がありません。9月の町広報で、町の条例で屋内飼養の努力義務があること、猫は飼い主が分かるようすることについて掲載をしました。今後も、注意喚起を行っていききたい。

・広報だと読まないのので、ごみ集積場に掲示してくれるとよい。

→ごみ集積場での掲示は難しい。ホームページにも掲載しているが、人の目に触れる場所でPRできるよう考えたい。

・町の役割は、具体的に何があるのか。

→活動の内容を説明する看板設置の他、自治会との連絡調整や活動紹介を行うなど、団体が活動できる環境の整備を行った。

・行政が、着けたくなるような鑑札を支援するなどしてほしい。

・どうぶつ基金のチケットについて、具合的に伺いたい。また、野良猫と飼い猫の判断はどのようにしているのか。

→事業開始後、藤沢・茅ヶ崎で活動している団体からの情報をいただき、どうぶつ基金のチケットを知りました。一般枠は12月で締め切っているのので、行政枠分のチケットが交付できないか、環境課を通じて申請したいと思っています。また、飼い猫

との区別は、首輪をしていないと野良猫と区別が付きません。ただし、手術した猫については、猫の片側の耳を三角にカットしています。

【中間報告④】

町の樹木再生による水と緑の自然溢れるさむかわ創生活動（住みよい町・さむかわにする会） [事業協力課：道路課・都市計画課・教育総務課]

<団体からの報告>

- ・寒川駅南口・北口の樹木を再生すると平行して、公共施設の樹木調査を行ってきた。公園、小中学校の樹木の水やりなどは、4月から行っている。のべ130人の方の協力をいただき、樹木調査や水やりをしてきた。
- ・調査をしたところ、公園の樹木の状態がひどく、優先的な対応が必要な樹木もあった。そのため、補助金の内約8万円を当初の計画にない対処療法をせざるをえず、変更承認申請を提出し承認を得た。
- ・小学校の樹木についての害虫は、高い樹木も消毒できる噴霧器を購入して使用し樹勢を回復した。
- ・2年前にケヤキを伐採した寒川駅南口歩道の植栽について、地面がむきだしになっている箇所がごみ置き場になってしまうという住民からの声があり、約5万円かけてサツキツツジを90本購入し植栽した。許可をいただければ、次年度もサツキツツジを購入し植栽したいと考えている。
- ・倉見桜緑道の樹木で特に低木が弱っている。これも、来年度に植栽を提案したいと思っている。2月には、樹木医としての報告書を出したい。同時に、EMの活性液を入れ、来年度に繋げたいと思っている。

<質疑応答>

- ・活動報告について、半数は杉山さん1人で活動しているのか。
→はい。私が班長ということもあります。
- ・当初予算では、購入するのは消毒費ではなくEM活性液である。当初の目的と異なり、事務費とか使用料及び賃借料とあるが、これらは当初から予算を組むべきものと思う。使用料及び賃借料とある調査料については何か。
→水やりの際、重いホースを運ぶため車を使用します。その際、ガソリン代がかかるため、事務局からの指導によりこのように使用料及び賃借料としました。
- ・せっかくこのような活動をしているのだから、周囲の方に活動を理解してもらう必要がある。来年度でもよいので、例えば樹木再生中という札をかけるなど、アピールすることができるようによい。普通の人が見ても、それが弱っている木か分からないので、分かるようにするとよいと思う。
→このような団体が事業をしていると説明する札があってもよいと思います。来年

度、提案させていただきます。事業協力課が立ち会ってくれて助かっています。町の広報も写真を撮りに来ており、協力に感謝します。

【中間報告⑤】

青色回転灯装着車両による防犯安全パトロール事業（小谷地域防犯安全パトロール隊）〔事業協力課：協働文化推進課〕

<団体からの報告>

- ・小谷自治会の中で、防犯パトロール隊を3年前につくった。町からも青パトに必要な備品をいただいた結果、2年前にこの活動を開始できた。
- ・夜間の高齢者の運転は避けるため、第1と第3の土曜の夕方に活動している。地域の見守りとパトロールは、3グループで小谷全域で行っている。これに加えて、青パトの活動を始めた。子どもの見守りもしている。青パトは毎週金曜日の下校時、2時40分から3時半まで行っている。
- ・効果もあるようで、住民から感謝されており、成果があったと自負している。今後も継続していきたいと考えている。
- ・課題は、メンバーの高齢化。平均して、74～75歳くらいだと思う。今後人数を増やすにしても、自治会を通して若い方にもお願いしたいと思っている。

<事業協力課からの報告>

- ・パトロールは毎月奇数週の土曜日に行っている。児童の見守りは、月曜から木曜の予定が、毎週金曜日に変更となった。
- ・メンバーが不足しており、メンバー間の日程調整をしている。
- ・27年度は青パトのメンバーが4人しかいなかったが、年度当初に町職員対象の青パト講習を一緒に受講してもらい、3人増えて7人となった。
- ・8月は夏休みなので、下校時の見守りは行っていない。使用料の支払は毎月ではなく、年間通してお支払いする予定であるため、まだ支出はありません。

<質疑応答>

- ・問題点のメンバー不足について、町内の掲示板や町のホームページなどでPRするなど、新しいメンバーを募集できるようにしてはどうか。町も協力しているような形でPRにしないとメンバーは増えない。
→去年、小谷の自治会の掲示板に募集チラシを貼ったりしている。今後も、メンバー募集をしていきたい。
- ・防犯は、日頃から地域で取り組むべきもの。事務局に訊くが、町補助金が27,200円となっているが、27,000円ではないか。
→実績報告では改めます。

・事業費が一番小さいが、必要経費をもらえるようにしてはどうか。内容は充実しているが、補助金の申請額が少ない。

→補助金の要綱上、補助対象外経費がありますが、個人の車両を使用するのはこの事業になじまないと思う。町の車両は、職員以外乗れないと言われています。

・車両の使用料について、樹木再生では1回150円だが、こちらでは1回100円となっている。各事業で計算根拠が異なっているが、ここの数字1つ見ても、(活動に応じた額が補助できる)方法あるのではないか。

・1年2年で終わる話しではないので、予算も団体と町で考え、地域と連携して続けていただきたい。

・できれば小谷以外でも、寒川全体で防犯の連絡協議会ができるとよい。小谷がいい事例になっているので、これが町全体に広がっていくとよい。

→他の小学校でもパトロールしようという声が出ている地域もあったが、その地域の自治会が話しに乗ってこないため没になった。学校単位ではなく寒川全域ですることが、町のため、町民のためになると考えています。小谷の活動がモデルになればよいと思います。

・事務局に訊くが、まだ支出がない。団体から説明があつたが、年間で支払うことをここに書いてもらわないと、団体に質問をすることになる。